

宮崎県感染症週報

宮崎県感染症情報センター

宮崎県健康増進課

宮崎県衛生環境研究所

■ 宮崎県第10週の発生動向

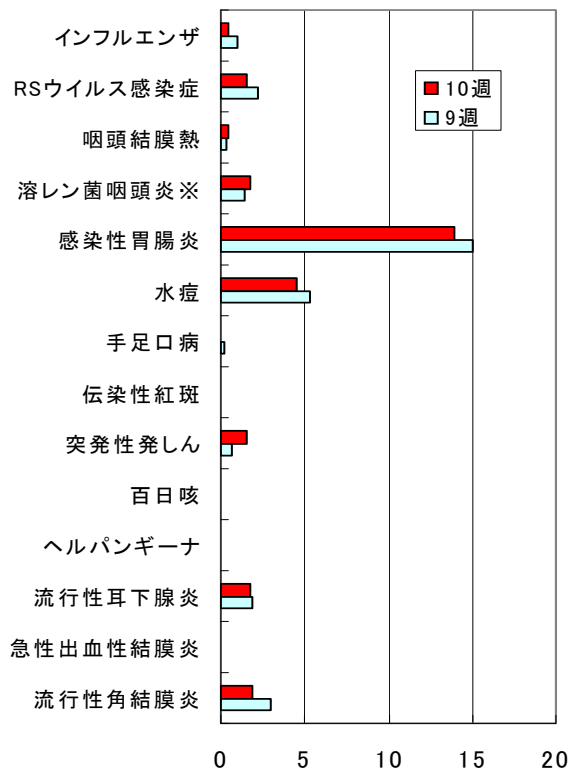
定点医療機関からの報告総数は973人(定点あたり28.4)で、前週比91%と減少した。

前週に比べ増加した主な疾患はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で、減少した主な疾患はインフルエンザ、RSウイルス感染症、水痘であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は64人(1.8)で前週比121%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値(2.5)の約7割であった。延岡(4.5)、高鍋(2.8)、日向(1.8)保健所からの報告が多く、年齢別では4歳から8歳で全体の約6割を占めた。

細菌性髄膜炎1人が延岡保健所から報告された。患者は10ヶ月の男児で原因菌はPISP(ペニシリン中間耐性肺炎球菌)であった。

《前週との比較》



《定点あたり報告数》
※A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

■ 保健所別流行警報開始基準値超過疾患

	流行警報 開始基準値	定点あたり報告数		年齢分布
		宮崎県全体	基準値を超えた保健所	
感染性胃腸炎	20	14.0	小林(22.0)	1歳~6歳で全体の約6割を占めた。
水痘	7	4.6	日南(8.0)、日向(7.3)	1歳~3歳で全体の約7割を占めた。
百日咳	1	0.11	延岡(1.0)	6~11ヶ月、2歳、7歳、8歳が各1人であった。
流行性耳下腺炎	6	1.8	延岡(7.0)	3歳~5歳で全体の約半数を占めた。

■ 全数把握対象疾患

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 4 例が宮崎市・小林・高鍋・中央 (各 1 例) 保健所から報告された。
《宮崎市保健所》・50 歳代の女性で肺結核。痰がみられた。
《小林保健所》・80 歳代の男性で肺結核。
《高鍋保健所》・30 歳代の女性で疑似症患者。食欲低下がみられた。
《中央保健所》・60 歳代の女性でその他の結核 (結核性胸膜炎)。咳、発熱、呼吸困難がみられた。
- 3 類感染症 : 報告なし。
- 4 類感染症 : 報告なし。
- 5 類感染症 : 破傷風 1 例が宮崎市保健所から報告された。60 歳代の男性で筋肉のこわばり、開口障害、嚥下障害がみられた。

■ 全国第 9 週の発生動向

定点医療機関あたりの患者報告総数は 20.0 で、前週比 94%と減少した。今週増加した主な疾患は流行性耳下腺炎で、減少した主な疾患はインフルエンザと RS ウイルス感染症であった。

流行性耳下腺炎の報告数は 3,289 人 (1.1) で、前週比 110%と増加した。例年同時期の約 1.4 倍である。沖縄県 (3.2)、山形県 (2.6)、大分県 (2.4) からの報告が多く、年齢別では 3 歳から 6 歳で全体の約 6 割を占めた。

感染性胃腸炎の報告数は 34,726 人 (11.5) で、前週比 93%と減少したが、例年同時期の 1.4 倍と多くなっている。大分県 (20.1)、新潟県 (19.1)、山形県 (17.4) からの報告が多く、年齢別では 1 歳から 6 歳で全体の約 6 割を占めた。

□全数把握対象疾患

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 290 例
- 3 類感染症 : 細菌性赤痢 3 例、腸管出血性大腸菌感染症 12 例
- 4 類感染症 : E 型肝炎 2 例、オウム病 1 例、テング熱 1 例、マラリア 1 例、レジオネラ症 5 例
- 5 類感染症 : アメーバ赤痢 11 例、ウイルス性肝炎 2 例、急性脳炎 2 例、クロイツフェルト・ヤコブ病 1 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 2 例、後天性免疫不全症候群 11 例、梅毒 8 例、破傷風 1 例、風疹 2 例、麻しん 5 例

■月報告対象疾患の発生動向 <2月>

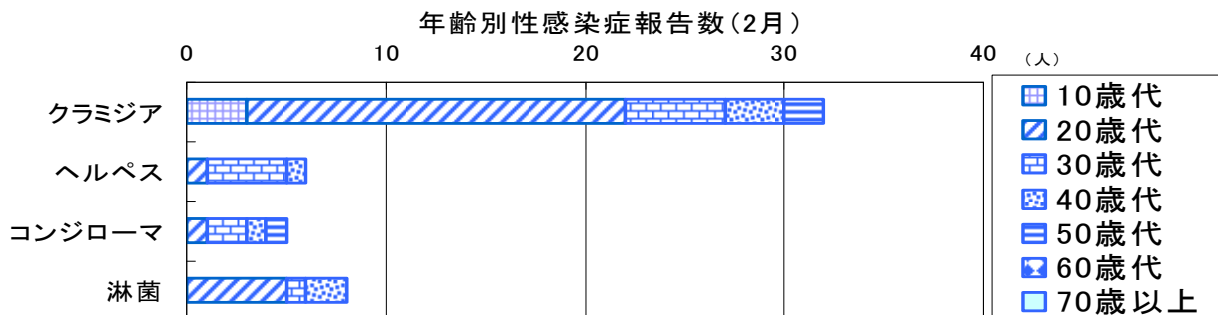
□性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は51人（3.9）で、前月比111%と増加した。昨年2月（2.0）の約2倍と多かった。

《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数32人（2.5）で、前月の約1.1倍、前年の約1.2倍であった。日向（7.0）、宮崎市（3.0）保健所からの報告が多く、男性14人・女性18人で、20歳代が全体の約6割を占めた。
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数6人（0.46）で、前月と同数、前年の約1.1倍であった。全て女性で、20歳代・40歳代がそれぞれ1人、30歳代が4人であった。
- 尖圭コンジローマ：報告数5人（0.38）で、前月の1.7倍、前年の約2.3倍であった。男性3人・女性2人で、20歳代・40歳代・50歳代が1人、30歳代が2人であった。
- 淋菌感染症：報告数8人（0.62）で、前月の約1.1倍、前年の約9割であった。男性6人・女性2人で、20歳代が5人、30歳代が1人、40歳代が2人であった。



【全国】 定点医療機関総数：967

定点医療機関からの報告総数は3,808人（4.0）で、前月比95%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症1,980人（2.1）で前月比98%、性器ヘルペスウイルス感染症645人（0.67）で前月比93%、尖圭コンジローマ404人（0.42）で前月比98%、淋菌感染症779人（0.81）で前月比91%であった。

□薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は41人（5.9）で前月比91%と減少した。また昨年2月（4.6）の1.3倍と多かった。

《疾患別》

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数20人（2.9）で、前月の約7割、前年の約8割であった。宮崎市（7.0）、日南（6.0）保健所からの報告が多く、70歳以上が全体の約7割を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告数21人（3.0）で、前月の約1.3倍、前年の約3.5倍であった。宮崎市（20.0）保健所からの報告が多く、10歳未満が全体の約9割を占めた。
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告はなかった。

【全国】 定点医療機関総数：464

定点医療機関からの報告総数は2,301人（5.0）で、前月とほぼ同数であった。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,804人（3.9）で前月比98%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症470人（1.0）で前月比111%、薬剤耐性緑膿菌感染症27人（0.06）で前月比120%であった。

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2010年 第10週(03月08日～03月14日)

疾病名		第9週	第10週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	58	27	1	12			8			1	5
	定点あたり	0.98	0.46	0.07	1.20	0.00	0.00	1.60	0.00	0.00	0.17	1.67
RSウイルス 感染症	報告数	78	56	8	5	15	4		12		11	1
	定点あたり	2.17	1.56	0.89	0.83	3.75	1.33	0.00	3.00	0.00	2.75	0.50
咽頭結膜熱	報告数	13	15	3	3	3			1		5	
	定点あたり	0.36	0.42	0.33	0.50	0.75	0.00	0.00	0.25	0.00	1.25	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	53	64	13	8	18	3	1	11	1	7	2
	定点あたり	1.47	1.78	1.44	1.33	4.50	1.00	0.33	2.75	1.00	1.75	1.00
感染性胃腸炎	報告数	542	503	137	104	33	47	66	55	7	38	16
	定点あたり	15.06	13.97	15.22	17.33	8.25	15.67	22.00	13.75	7.00	9.50	8.00
水痘	報告数	190	165	45	25	19	24	15	4	1	29	3
	定点あたり	5.28	4.58	5.00	4.17	4.75	8.00	5.00	1.00	1.00	7.25	1.50
手足口病	報告数	6	4	1	1				2			
	定点あたり	0.17	0.11	0.11	0.17	0.00	0.00	0.00	0.50	0.00	0.00	0.00
伝染性紅斑	報告数	5	1	1								
	定点あたり	0.14	0.03	0.11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	23	54	17	12	5	5	5	6		3	1
	定点あたり	0.64	1.50	1.89	2.00	1.25	1.67	1.67	1.50	0.00	0.75	0.50
百日咳	報告数	3	4			4						
	定点あたり	0.08	0.11	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	1	4	1					3			
	定点あたり	0.03	0.11	0.11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.75	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	67	64	8	11	28		1			15	1
	定点あたり	1.86	1.78	0.89	1.83	7.00	0.00	0.33	0.00	0.00	3.75	0.50
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	18	11	8	3							
	定点あたり	3.00	1.83	2.67	1.50	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数		1			1						
	定点あたり	0.00	0.14	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点当たり報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2010年第1週～10週)

2類感染症	結核	28例(4)			
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	5例			
4類感染症	つつが虫病	1例	レジオネラ症	1例	
5類感染症	ウイルス性肝炎	1例	急性脳炎	3例	後天性免疫不全症候群
	梅毒	2例	破傷風	1例(1)	麻しん

()内は今週届出分、再掲

感染症情報

溶レン菌感染症が増えています。(3月8日～3月14日)

溶レン菌感染症（A群溶血性レンサ球菌咽頭炎）の報告が延岡・高鍋周辺で多く、10歳未満の子どもたちが多く感染しています。

この病気は夏季を除き1年を通して流行し大人も感染します。症状は突然の発熱、全身倦怠感、のどの痛みによって発症し、へんとう腺が腫れ、嘔吐やお腹が痛くなったりすることもあります。

溶レン菌感染そのものは、抗生物質を2～3日飲めば治まりますが、急性腎炎、リウマチ熱、血管性紫斑病などの合併症を防ぐために、症状が改善しても勝手に薬を中断せず、指示された期間（10～14日間）薬を飲むことが大切です。喉の痛みが強いときには、軟らかく薄味で刺激の少ない食事にし、水分補給を心がけましょう。

患者さんの咳やくしゃみ、唾液の飛沫や、排出された細菌が手などを介して口に入ることによって感染するので、集団感染することもあります。家庭内でも感染が起りやすいので、家族に患者さんがいる時には、兄弟のお子さんは濃厚な接触は避け、手洗いを徹底し、うがいも頻繁にするようにしましょう。

文字数 435